

製品名: 嗅覚受容体 1B1 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab15166**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB, ICC/IF, ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000, ICC/IF 1:200-1:1000, ELISA 1:10000-1:20000
分子量	33kDa

抗原情報

遺伝子名	OR1B1
別名	OR1B1; Olfactory receptor 1B1; Olfactory receptor 9-B; OR9-B; Olfactory receptor OR9-26
遺伝子 ID	347169.0
SwissProt ID	Q8NGR6
免疫原	抗血清はヒト OR1B1 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 161-210

背景

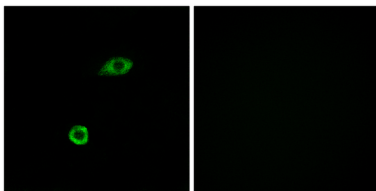
嗅覚受容体は鼻腔内の嗅覚分子と相互作用し、嗅覚の知覚を引き起こす神経反応を引き起こします。嗅覚受容体タンパク質は、単一のコーディングエクソン遺伝子から生じる G タンパク質共役受容体 (GPCR) の大規模なファミリーに属します。嗅覚受容体は、多く

の神経伝達物質受容体やホルモン受容体と7つの膜貫通ドメイン構造を共有し、嗅覚シグナルの認識とGタンパク質を介した伝達を担っています。嗅覚受容体遺伝子ファミリーはゲノム中で最大のファミリーです。この生物の嗅覚受容体遺伝子およびタンパク質に割り当てられた命名法は、他の生物とは独立しています。この嗅覚受容体遺伝子は分離型偽遺伝子であり、一部の個体は機能的な嗅覚受容体をコードする対立遺伝子を持つ一方、他の個体は機能：嗅覚受容体をコードする対立遺伝子を持つ。、多型：このタンパク質をコードする遺伝子のArg-192位の終止コドンが機能的多様性に関与し、偽遺伝子が生じる。この終止コドンは、アフリカ系アメリカ人よりも非アフリカ系アメリカ人で多くみられる。、類似性：Gタンパク質共役受容体1ファミリーに属する。、

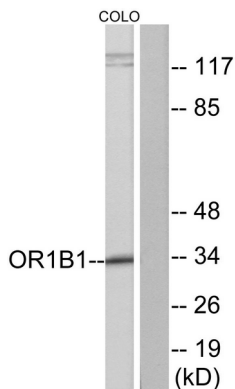
研究分野

嗅覚伝達；

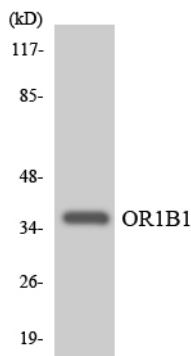
画像データ



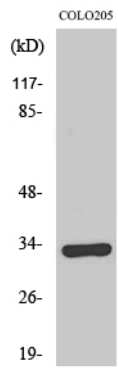
OR1B1抗体を用いたA549細胞の免疫蛍光染色。右の写真は合成ペプチドでブロックした状態。



OR1B1抗体を用いたCOLO細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロックされている。



OR1B1抗体を使用したHeLa細胞の溶解物のウェスタンブロット分析。



嗅覚受容体 1B1 ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット解析